



2022年(令和4年)

6月22日

水曜日

仏滅

発行所  
北日本新聞社  
富山市安住町2番14号  
〒930-0094 電話076-445-3300  
©北日本新聞社 2022

とやま経済

# 資源循環システム構築 エムダイヤ立山に新工場

リサイクル機械製造のエムダイヤ(滑川市中村、森弘吉社長)は、立山町辻に新工場を建設する。最新鋭設備を導入し、取引先のメーカーやリサイクル業者との研究・協業を加速。自社開発したIoT(モノのインターネット)機器の実証を進める。機械製造の枠を越えて資源循環の新たなビジネスモデルを構築し、事業拡大を目指す。

(浜田泰輔)

新工場(延べ490平方  
メートル)は、北陸自動車道立山  
インターチェンジ近くに整

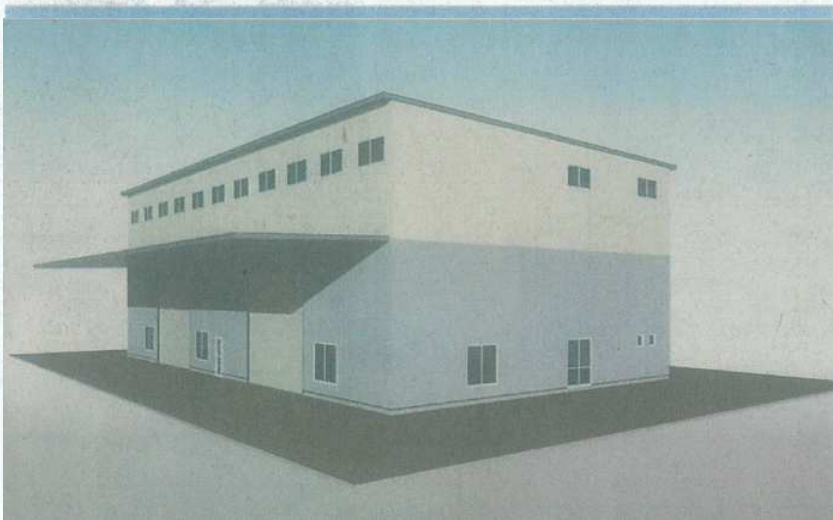
備する。既に着工しており、  
2023年春の稼働を予定  
する。投資額は設備費を含

めて約2億円。

エムダイヤにとっては2  
カ所目の生産拠点。滑川の  
本社工場が機械設備を製造  
する「ものづくり」の拠点  
なのに対し、新工場はサー  
ビスやシステムを生む「コ  
トづくり」の拠点と位置付  
け、リサイクルの新たな仕  
組みづくりに重点を置く。  
同社は光ケーブルや自動



エムダイヤが製造する  
リサイクル機械



新工場の完成イメージ図

車部品といった異素材混合物を破砕・分離する技術に強みを持つ。社員11人の中小企業でありながら、大手の自動車メーカーや電機メーカーを含む数社と直接取引している。

幅広い顧客網を生かし、2020年に取引先の電線メーカーとリサイクル業者を仲介して、廃棄されたアルミ線を原料に再生する事業に参入。こうした新ビジネスを拡大させたい考えで、レアメタル(希少金属)の回収・再資源化などを想定している。

海外での事業展開もらむ。かつて海外での販売を目指して東南アジアで市場調査したが、1台数千万円の製品価格がネックとなり、見送った経緯がある。その後、製品のIoT機能を強化し、遠隔地からの操作やデータ管理、保守が可能となった。機能をさらに高め、海外ではレンタルやリースでの普及を狙う。

森社長は「廃棄物を巡る社会課題をビジネスで解決する、新しい資源循環システムを築いていきたい」と話している。